



学びが変わる
未来が動き出す

印西市教育ビジョン（素案）

2026-2030
(令和8年～令和12年)

教育ビジョンWG まとめ

2025年11月30日時点

はじめに

地域の未来であるこどもたちが「幸せに生きる力」を育むために

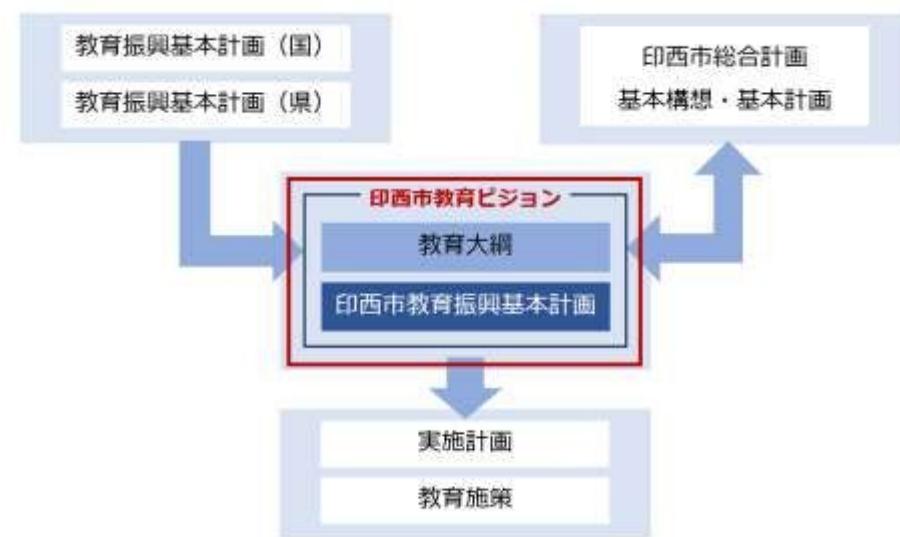
「印西市教育大綱」と「印西市教育振興基本計画」を一本化し「印西市教育ビジョン」を策定

印西市教育ビジョンとは

- 印西市の教育の方向性を示すもの
期間：令和8年度～令和12年度

【基本的な考え方】

- 地域にとってこどもたちは「宝」であり地域の未来そのものである
- 「正解がない」といわれる時代において、地域の未来であるこどもたちが、「幸せに生きる力を育むこと」こそが最優先事項である
- 教育に関する課題がこれまで以上に多様化する中で、市長部局と教育委員会が市の目指すべき教育と一緒に考え一体となって推進していく



Index

A. 総論

- A-1 世界潮流
- A-2 変革の方向性
- A-3 教育ビジョン戦略
- A-4 教育ビジョン戦略の全体像
- A-5 印西市が目指す教育の姿とは
- A-6 「目指す姿」を実現するために必要なことは？
- A-7 そのためにはどのような支援が必要か？
- A-8 これからの教育に必要な「3つの力」を育むために特に何に力を入れるべきか？

B. 各論

- B-1 教職員：働くプロジェクト
- B-2 こども：学ぶプロジェクト
- B-3 地域：共に育むプロジェクト

A. 総論

私たちを取り巻く世界は急激に変化しており
世界潮流を踏まえた教育に変えていく必要があります。

変化が激しい・先が見通せない時代（答えのない世界）

社会と人の幸せの在り方

気候変動と持続可能性

多様性が増す社会

関係性の希薄化と孤独化

問われる民主主義の在り方

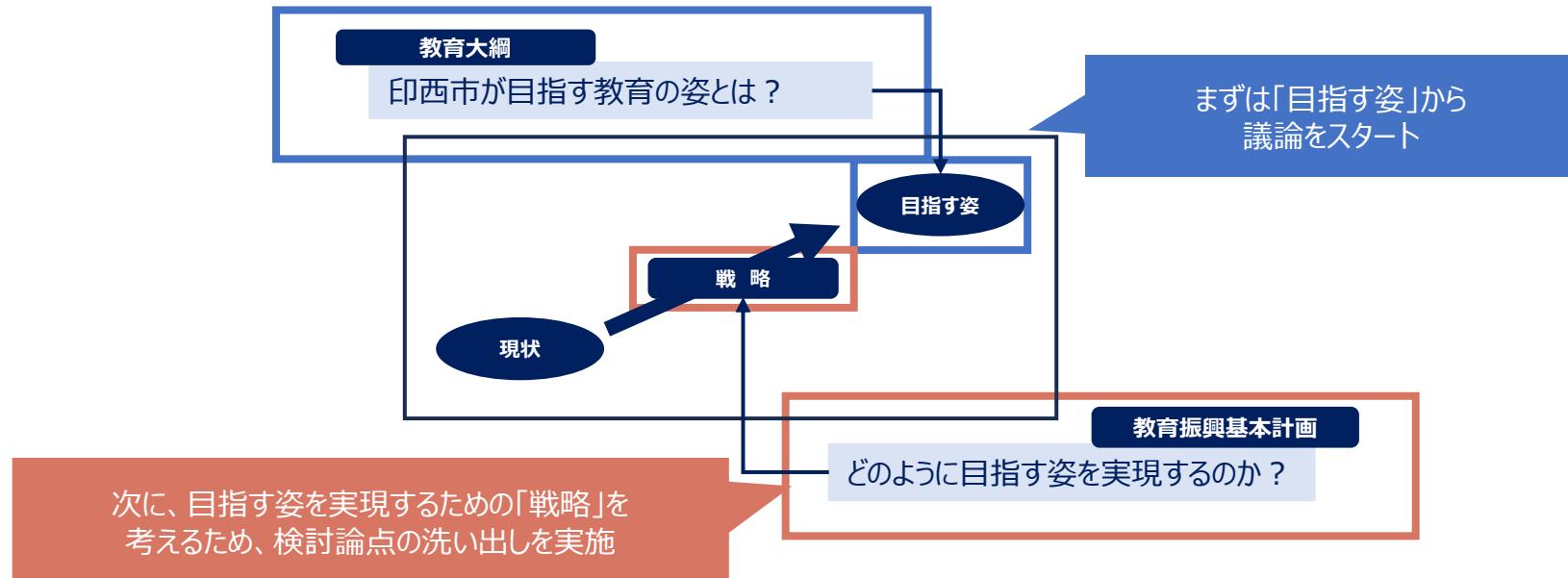
身体性の喪失とバーチャル／
デジタル世界の拡大

「正解を教える教育」から「問い合わせ共に探究する教育」へ
これからの「学び」は単に提供するだけではなく、学習者が中心となる学びに変わります。

項目	Not this (これまで)	But this (これから)
学びの主体 教員の役割	教員が一斉に教える・受動的な学び 知識伝達者・指導管理者	子どもが自ら問い合わせ持ち探究する・主体的な学び ファシリテーター・学びの伴走者
カリキュラム 学びの方法	教科ごとに独立・単線的 教科書・黒板中心・知識詰込み型	個別最適化・横断的・柔軟な学び ICT活用・対話・探究・プロジェクト型学習
評価 キャリア観	テスト中心・点数・知識量重視 偏差値・進学がゴール	プロセス・対話・多面的評価 生きる力・社会貢献・自己実現を重視したキャリア形成
教室の役割	知識を教える場所	共創し、問い合わせ育む場所
協働の在り方	個人作業中心	チームで課題解決・他者との対話
地域・社会との関係性	閉鎖的な校内文化	地域・社会とつながるオープンで柔軟な学校文化

教育ビジョンの策定にあたり「印西市が目指す教育の姿とは？」「どのように目指す姿を実現するのか？」という2つの論点について市としての考え方を示す必要があります。

教育大綱と教育振興基本計画の関係



教育ビジョン戦略の全体像

各論点の検討を深めるため、サブ論点を設定し議論を実施します。
また、現時点の仮説を整理する必要があります。

論点	サブ論点	現時点の仮説
印西市が目指す教育の姿とは？	<p>A-5 誰もが「こころ」「からだ」「社会的つながり」が健やかで満たされている状態 一人ひとりが幸せや生きがいを感じるとともに地域や社会が幸せや豊かさを感じられる状態 = ウエルビーイング</p> <p>「目指す姿」を実現するために必要なことは？</p>	<p>A-6 現代においても変わることのない「自分らしく生きる」ことや「他者とつながる」といった普遍的な価値（不易）を基盤としつつ、未来を創る（時代や社会の変化（流行）に柔軟に対応する）学びを通じて、一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」として成長していくこと</p>
どのように「目指す姿」を実現するのか？	<p>そのためにはどのような支援が必要か？</p>	<p>A-7 これからの教育に必要な「3つの力」を育む学びを支える ・自分らしく生きる力（自立） ・他者とつながる力（共生） ・未来を創る力（創造）</p>
	<p>これからの教育に必要な「3つの力」を育むために特に何に力を入れるべきか？</p>	<p>A-8 3つのプロジェクトを展開する ・教職員：働くプロジェクト～軽やかに前向きに働ける学校へ～ ・こども：学ぶプロジェクト～自分らしさを活かし共に創る学びへ～ ・地域：共に育むプロジェクト～みんなでつながり共に育む地域へ～</p>

こどもたち一人ひとりのウェルビーイングを実現します。

ウェルビーイングとは、誰もが「ここ」「からだ」「社会的つながり」が健やかで満たされている状態や一人ひとりが「幸せや生きがいを感じるとともに地域や社会が幸せや豊かさを感じられる状態です。

こどもたち一人ひとりのウェルビーイングが学校や地域全体のウェルビーイングに

子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要。また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められます。

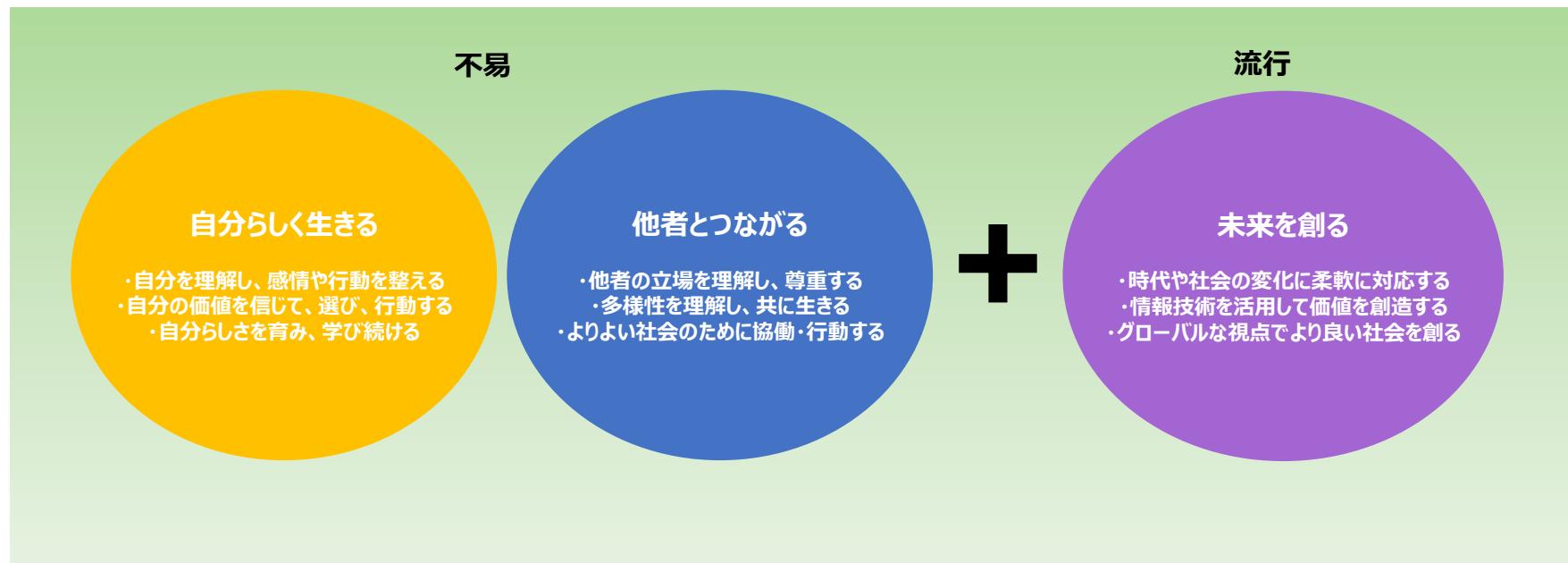


(出典：文部科学省 第4期教育振興基本計画)

「目指す姿」を実現するために必要なことは？

現代においても変わることのない「自分らしく生きる」ことや「他者とつながる」といった普遍的な価値（不易）を基盤としつつ、未来を創る（時代や社会の変化（流行）に柔軟に対応する）学びを通じて、一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」として成長していくことが必要です。

子どもたちだけでなく教職員や保護者、地域全体で成長する



そのためにはどのような支援が必要か？

一人ひとりのウェルビーイングと持続可能な社会の創り手としての成長を目指すうえで、「自分らしく生きる力」と「他者とつながる力」を育む必要があると考えます。また、これからの時代には「未来を創る力」が特に必要と考えます。

これからの教育に必要な「3つの力」を育む学びを支えていく

自分らしく生きる力（自立）

自らへの主体性

自ら問いをもち、探究・行動し続ける力

- ①自分を理解し、感情や行動を整える
 - 自分の感情や特性を理解し、前向きに受け入れる
 - 感情や行動を調整し、自分を整える
 - 行動や学びを振り返り、よりよくしようとする
- ②自分の価値を信じて、選び、行動する
 - 自分の考え方や信念に基づいて判断・選択する
 - 自分を信じて、責任をもって行動する
 - 困難にも粘り強く取り組み、挑戦し続ける
- ③自分らしさを育み、学び続ける
 - 自分の関心や得意を活かし、目標に向かって学び続ける
 - 学び方を見直し、自分に合った方法で学びを深める
 - 振り返りと変化に対応しながら、自らを高め続ける

他者とつながる力（共生）

社会への主体性

共に学び、支え合い、より良い社会を築く力

- ①他者の立場を理解し、尊重する
 - 人権を尊重し、思いやりある行動をとる
 - 他者の感情・経験・意見を理解する
 - 弱い立場の人に対しても敬意を持って接する
- ②多様性を理解し、共に生きる
 - 多様な価値観・文化・背景を理解する
 - 違いを認め、共に学び合う姿勢を持つ
 - 誰もが安心できる「居場所」をつくることを大切にする
- ③よりよい社会のために協働・行動する
 - 多様な他者と対話を重ね、共通理解を築く
 - 互いの役割や強みを活かして協働する
 - 地域や社会の課題を見つけ、自ら関わろうとする

未来を創る力（創造）

未来を構想し、学びを活かして創造する力

デジタル
教育

- ①テクノロジーや情報を活用し、当たり前を問い合わせながら探究して、新たな価値を創り出す

グローバル
マインド

- ②多様な世界とつながり、グローバルな視点で未来を見通し、共によりよい社会を創っていく

これからの教育に必要な「3つの力」を育むために特に何に力を入れるべきか？

A-8

教職員における「学びの変革」を優先的に取り組むべきと考え、3つプロジェクトを柱とし、印西市の強みと特色を活かした10の施策を展開します。

印西市の教育が変わる！3つのプロジェクトと10の施策

プロジェクト01

教職員：働くプロジェクト ～軽やかに前向きに働ける学校へ～

教職員のやりがいと働きやすさを両立させた取り組みにより「子どもの笑顔が生まれる、教職員の働きがい日本一」を目指します。

施策

- ① 業務・勤務時間の適正化
- ② 人員体制の強化
- ③ 働きやすい環境整備と専門性の向上

プロジェクト02

こども：学ぶプロジェクト ～自分らしさを活かし共に創る学びへ～

市の強みである日本一のデジタル教育と市の特色である自然との調和でこどもたちの可能性を最大限に引き出す取り組みにより「未来を切り拓く世界モデルの学び」を目指します。

施策

- ① 先進的なデジタル教育の推進
- ② デジタル基盤を活用した質の高い探究的な学びの実現
- ③ グローバル社会を見据えた学びの推進
- ④ 多様な学びの保障と包摂的な支援体制の整備

プロジェクト03

地域：共に育むプロジェクト ～みんなでつながり共に育む地域へ～

学校と地域がつながる仕組みづくりや社会全体でこどもたちの学びを支える取り組みにより「子どもの学びを社会で育む”共育”日本一」を目指します。

施策

- ① 学校と地域が連携した共育のしくみづくり
- ② 放課後等の学びと育ちを支える体制の整備
- ③ 中学校部活動の地域展開

B.各論

プロジェクト01

教職員：働くプロジェクト

～軽やかに前向きに働ける学校へ～

印西市の現状と課題（1）

現状

- 学校現場では、授業に加え行事や部活動等、多くの業務を抱え、子ども一人ひとりに向き合う時間が十分に確保できていない状況です。

課題

- 長時間勤務や過度な負担は、教職員の健康や働きがいを損ねるだけでなく、子どもたちの学びの質にも影響します。
- これからの教育をより豊かにしていくためには、学びを支える教職員が安心して力を発揮できる環境を整えることが必要です。

印西市の現状と課題（2）

本市の勤務時間等の現状

教職員の出退勤時刻等

対象者	学校種	年度	時間外在校等時間（平均）	45時間超えて在校する者の人数（割合）	うち80時間超えて在校する者の人数（割合）
教員等	小学校	R 4	48時間6分	209人(55%)	36人(9%)
		R 5	43時間40分	193人(48%)	23人(6%)
		R 6	40時間7分	194人(47%)	24人(6%)
	中学校	R 4	48時間6分	105人(51%)	32人(16%)
		R 5	47時間6分	85人(41%)	29人(14%)
		R 6	46時間38分	107人(52%)	35人(17%)
教頭	小学校	R 4	61時間34分	16人(80%)	3人(15%)
		R 5	64時間40分	17人(85%)	5人(25%)
		R 6	66時間00分	18人(90%)	6人(29%)
	中学校	R 4	62時間41分	8人(89%)	1人(11%)
		R 5	65時間17分	9人(100%)	1人(11%)
		R 6	67時間00分	8人(89%)	1人(11%)

新たな課題

教員の未配置状況
(小学校のみ、中学校の未配置なし)

年度	定数内	産休・育休代替
R 5	17人	0人
R 6	16人	2人
R 7	4人	7人

職員の未配置状況の傾向

- 未配置状況は年々解消されてきている
- 産休等の代替教員は、配置されない状況が続く
年度途中で休暇に入った職員への代替教員の配置も困難

未配置は、教員のみならず
教頭にも負担増加

未配置解消なしでは、
働き方改革は進まぬ!!

時間外在校時間(小中学校共に)

時間外在校等時間の傾向	結果	考えられる原因	
	教員等	減少	△
教頭	増加	○	×

注) ○ ; 良好 × ; 厳しい

45時間を超えて在籍する者(小中学校共に)

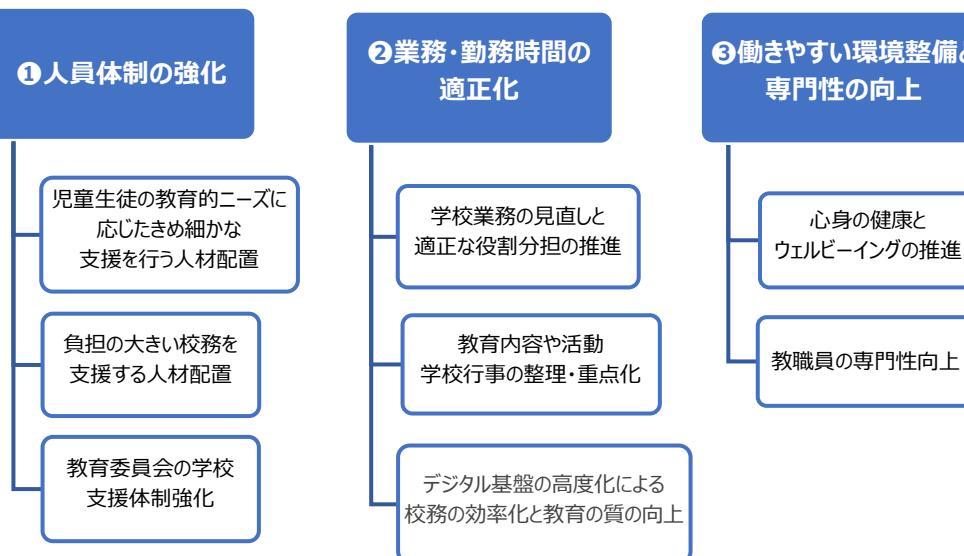
教員等→約50%

教頭 →ほぼ全員

教職員：働くプロジェクトの展開

教職員のやりがいと働きやすさを両立させた取り組みにより
「子どもの笑顔が生まれる、教職員の働きがい日本一」を目指します。

施策と実施の方向性



ピックアップ事業

●シャドーイング調査の実施

- 教頭の業務実態見える化し、業務を縮減・軽減することで心身の健康を守る職場環境や支援体制を整えます。

●専門チーム体制の構築

- 弁護士や心理士などの専門家チームによる相談体制を整えるとともに、外部相談窓口を設置して、学校のさまざまな課題に対応できるようにします。

●ゼロトラスト環境基盤整備

- 学校内外問わずすべてのアクセスを検証・認証する環境を整備し、校務や図書のシステムを安全にクラウド化し、業務の効率化と教育の質の向上につなげます。

●エンゲージメント調査の実施

- 教職員の仕事への意欲、学校等への信頼や愛着を把握し、働きやすくやりがいのある職場環境づくりを支援します。

①人員体制の強化

学校に多様な専門人材を配置し、学習支援や相談体制、校務の支援を充実させます。人材を計画的かつ柔軟に確保できる仕組みを整え、学校現場を支える体制を強化します。

実施の方向性と主な取組

◆児童生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな支援を行う人材配置

主な取組

- 教育情報化アドバイザーを配置し、デジタル基盤の活用を専門的に支援します。
- 学校に学年アシスタントを配置し、教職員のきめ細かな支援を強化します。

◆負担の大きい校務を支援する人材配置

主な取組

- 学校の業務の実態を把握する調査を行うとともに、専門スタッフを配置し、事務や保健などの業務を支援します。
- 弁護士や心理士などの専門家チームによる相談体制を整えるとともに、外部相談窓口を設置して、学校のさまざまな課題に対応できるようにします。

◆教育委員会の学校支援体制強化

主な取組

- 指導主事が専門的な助言や支援に専念できる体制を整え、学校の学びを支援する機能を強化します。

②業務・勤務時間の適正化

教職員本来の役割を明確にし、地域や外部との役割分担を進めます。また、デジタル技術を活用して校務の効率化だけでなく、教育の質そのものを高める仕組みを整えます。

実施の方向性と主な取組

◆学校業務の見直しと適正な役割分担の推進

主な取組

- 外部の専門人材を教育委員会に配置し、学校業務の見直しと適正な役割分担を進めます。
- 勤務時間外の連絡や対応について、市が方針を定め、教職員が安心して働くことができるよう支援します。

◆教育内容や活動、学校行事の整理・重点化

主な取組

- 学校行事や課外活動などのあり方を見直し、学校の教育活動の重点化を支援します。

◆デジタル基盤の高度化による校務の効率化と、教育の質の向上

主な取組

- ゼロトラストの考え方に基づいて、校務や図書のシステムを安全にクラウド化し、業務の効率化と教育の質の向上につなげます。
- 学校用モバイル端末や徴収金システムを導入し、安全でスマートな学校業務を進めます。
- クラウド共有を進めて印刷や配付を削減し、業務の効率化を図るとともに、生成AIの活用により教職員の創造的な業務を後押しします。

③働きやすい環境整備と専門性の向上

心身の健康に配慮した職場環境や相談体制を整えます。あわせて、研修の充実や学びの機会の拡大を通じて、教職員一人ひとりが専門性を高め、成長し続けられるよう支援します。

実施の方向性と主な取組

◆ 心身の健康とウェルビーイングの推進

主な取組

- 教育委員会にスクールカウンセラーや保健師を配置し、教職員の心身の健康を支援するとともに、働きがいを高める取組を進めます。

◆ 教職員の専門性向上

主な取組

- 主体的な研修を支援するプログラムを実施し、教職員が自らの課題に応じて学べるようにします。
- 国内派遣研修制度を創設し、教職員が他の自治体や学校で学びを深め、その成果を地域に還元できるようにします。



～教職員の働き方改革のために～

文科省が提唱する学校の働き方改革に係る「3分類」が改訂されます。

学校と教師の業務の3分類 別添4

▶ 教師が教師でなければできない業務に専念できるよう、服務監督教育委員会は、これらを踏まえて、それぞれの地域における業務の見直しについて、優先的に対応するものから「業務量管理・健康確保措置実施計画」に反映。

▶ 学校は、学校運営協議会等での議論を経て、優先順位を定めながら、各校の実情に応じた運用を行う。
これらの代表例のほか、地域・学校ごとの議論を踏まえて、業務を不斷に見直すことが必要。

学校以外が担うべき業務

- 1 登下校時の通学路における日常的な見守り活動等
- 2 放課後から夜間などにおける校外の見回り、児童生徒が補導された時の対応
- 3 学校徴収金の徴収・管理（公会計化等）
- 4 地域学校協働活動の関係者間の連絡調整等
- 5 保護者等からの過剰な苦情や不当な要求等の学校では対応が困難な事案への対応

※朝の時間帯や下校時間の後に、学校施設で預かり活動を行つ必要がある場合は、学校以外の管理体制を構成

教師以外が積極的に参画すべき業務

- 6 調査・統計等への回答 | 学校への依頼を減らし、デジタル技術を活用しつゝ、事務職員を中心に実施
- 7 学校の広報資料・ウェブサイトの作成・管理 | 学校行事・場合は事務職員が積極的に参画
- 8 ICT機器・ネットワーク設備の日常的な保守・管理 | 教育委員会と連携を図りながら、事務職員等を中心に実施しつゝ、地域の実情に応じて外部委託も積極的に検討
- 9 学校プールや体育館等の施設・設備の管理 | 教師は授業等に付随して行う日常点検を除く、外部委託等も積極的に検討
- 10 校舎の開錠・施錠 | 校長・教頭に認定せず、機械鍵盤、役割分担の見直し等を促進
- 11 児童生徒の休み時間における安全への配慮 | 地域住民等の支援や、細密等を促進
- 12 校内清掃 | 児童生徒への清掃指導は、地域住民等の支援を得て、回数・範囲の合理化等を促進
- 13 部活動 | 部活動の地域展開、地域連携を推進

※ 専門スタッフとの協働、デジタル技術の活用や外部委託の促進については、地方公共団体の関係機関が積極的に参画

教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務

- 14 給食の時間における対応 | 世に関する指針については、栄養教諭等が対応
- 15 授業準備 | 教科の日程などは補助的業務を教育支援員等の支援スタッフが実施。デジタル技術の活用を促進
- 16 学習評価や成績処理 | 授業作業等のうち補助的業務を教員業務支援員等の支援スタッフを中心に実施。自動採点等のデジタル技術の活用を促進
- 17 学校行事の準備・運営 | 関係機関との日程調整や物品の調査等について、事務職員や支援スタッフの協働を促進しつゝ、必要に応じて外部委託も検討
- 18 進路指導の準備 | 就職先に関する情報収集等について、事務職員や支援スタッフの協働を促進
- 19 支援が必要な児童生徒・家庭への対応 | 専門スタッフとの協働等を促進

まず取り組めること、取り組むべきことは何か、話し合うことが大切です。

3分類とは？

文部科学省が平成31年に教職員の働き方改革のために提唱し、業務の仕分けと負担軽減を目的としています。令和7年8月に改定案が示され、3つの分類の名称をより具体的にし、内容についても、保護者等からの過剰な苦情対応などが追加されています。

(出典：文部科学省HP)

実現に向けたロードマップ[°]

今後5年間で取り組む主な事業は以下のとおりです。

施策	実施の方向性	令和8年度 2026	令和9年度 2027	令和10年度 2028	令和11年度 2029	令和12年度 2030
①人員体制の強化	児童生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな支援を行う人材配置	●人材配置に向けた制度の設計・構築	●教育情報化アドバイザー配置 ●学年アシスタントモデル校配置	●学年アシスタント配置拡大		➡
	負担の大きい校務を支援する人材配置	●シャドーライン調査実施 ●専門スタッフ配置検討	●専門スタッフ段階配置 ●専門チーム体制構築検討	●専門スタッフ配置拡大 ●専門チーム体制構築	●専門チーム体制事業実施	➡
	教育委員会の学校支援体制強化	●教育委員会の体制強化	●指導主事業務適正化	●指導主事による伴走支援強化	●柔軟な教育課程編成支援	
②業務・勤務時間の適正化	学校業務の見直しと適正な役割分担の推進	●DX専門人材の配置 ●学校業務の棚卸し	●業務の切り分けと役割分担を明確化 ●外部委託可能性検討	●業務の適正化推進 ●外部委託の試行開始	●業務改善効果の検証と改善策の拡大	●継続的な業務改善の仕組みを構築
	デジタル基盤の高度化による校務の効率化と教育の質の向上	●ゼロトラスト環境基盤の設計	●ゼロトラスト環境基盤整備 ●クラウド型校務システム導入	●システム間連携による業務の最適化 ●データ連携強化	●ゼロトラスト運用安定化	
	教育内容や活動、学校行事の整理・重点化	●現状整理と見直しの基本方針策定	●学校行事などの精選・教育活動重点化試行	●整理・重点化の取組を定着	●子どもの学びを中心とした学校運営確立	
③働きやすい環境整備と専門性の向上	心身の健康とウェルビーイングの推進	●エンゲージメント調査検討	●エンゲージメント調査実施 ●教育委員会保健師の増員	●教育委員会にスクールカウンセラー配置		➡
	教職員の専門性向上	●研修サポートプログラム実施 ●国内派遣研修制度検討	●研修サポートプログラム拡大 ●国内派遣研修制度創設	●国内派遣研修制度実施		➡

プロジェクト02

こども：学ぶプロジェクト

～自分らしさを活かし共に創る学びへ～

印西市の現状と課題（1）

現状

- 多様化・高度化する社会や予測困難な時代の到来を背景に、教育には新たな役割が求められています。
- 一部の学校では、探究学習を通じて創造性を育むデジタル教育の先進的な実践が進められていますが、市全体ではこどもたちの自律的な学びを支える取組が十分に進んでいない状況です。

課題

- 従来の画一的な授業を見直し、一人ひとりに最適化された主体的・対話的で深い学びへの転換、すなわち「学びの変革」を推進する必要があります。
- 誰一人取り残されることなく、すべてのこどもが自分らしく学びに参加できる拠点と支援体制を整えることが必要です。

印西市の現状と課題（2）

将来の夢や目標を持っていますか

		当てはまると回答した割合	
		印西市	全国
小学校	R6	44.9	43.4
	R7	49.6	47.3
中学校	R6	37.1	36.1
	R7	32.7	35.5

人の役に立つ人間になりたいと思いますか

		当てはまると回答した割合	
		印西市	全国
小学校	R6	72.2	71.1
	R7	72.3	73.7
中学校	R6	69.1	68.6
	R7	70.4	71.3

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか

		当てはまると回答した割合	
		印西市	全国
小学校	R6	33.2	31.9
	R7	26.6	31.2
中学校	R6	32.8	27.1
	R7	21.1	23.0

総合的な学習の時間では、自分で課題を立て情報を集め整理して、調べたことを整理して発表するなどの学習活動の取り組んでいますか

		当てはまると回答した割合	
		印西市	全国
小学校	R6	41.5	36.5
	R7	41.1	37.5
中学校	R6	39.6	33.7
	R7	26.5	29.8

●個性を生かし共に生きる学びの支援

自分の好きなことや得意なことを生かし、他者と協働して探究する学びを通して、意欲や自己肯定感を高め、自ら課題を見いだし、創造的に行動できる環境を整えることが重要。

●自律的な学びの定着

各教科において、学びの自走につながる授業づくりが求められる。

●探究的な学びの継続性

校種間の連携（カリキュラム・マネジメント）を強化し、探究の一貫性を担保する必要がある。

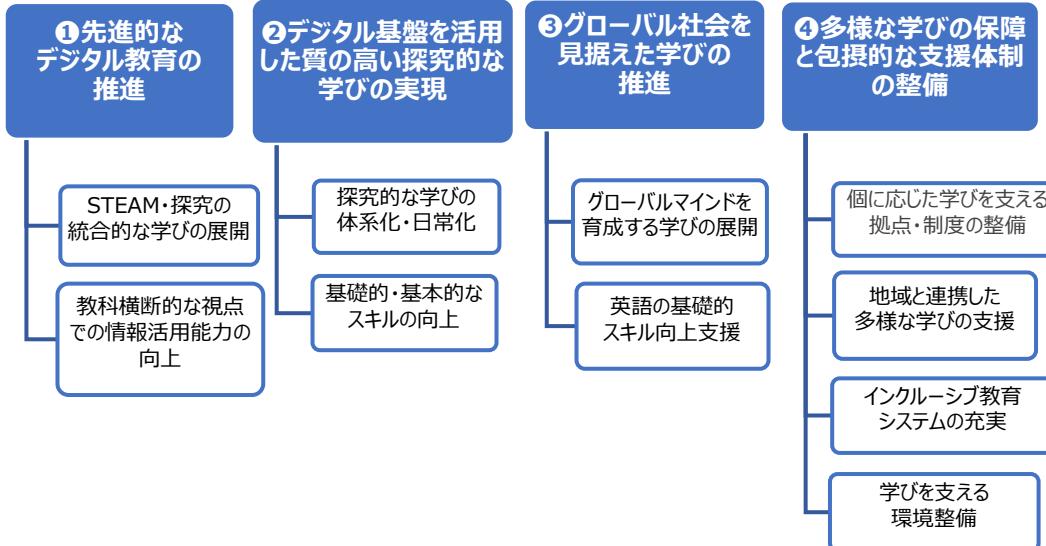


全国学力・学習状況調査質問調査結果より
(文部科学省実施)
対象：小学6年生、中学3年生)

こども：学ぶプロジェクトの展開

市の強みである日本一のデジタル教育と市の特色である自然との調和でこどもたちの可能性を最大限に引き出す取り組みにより「未来を切り拓く世界モデルの学び」を目指します。

施策と実施の方向性



ピックアップ事業

●ロボット教材（ロボッチャ）全小中学校導入

- ロボット教材（ロボッチャ）を活用し、小中連動のカリキュラムを整備し、STEAMを統合的に探究する学びを展開します。

●9年間を通じて一貫した英語学習を全小学校で実施

- 小中学校9年間を通じて一貫した英語学習を行う特別な教育課程を全ての小学校で編成・実施し、実践的なコミュニケーション能力の育成を図ります。

●（仮称）街のステーションまきば設置・校内支援センター全校設置

- 各小中学校内に校内教育支援センターを順次整備とともに、交通の便の良い場所に新たな市教育支援センター（まきば）を設置し、こどもたちが安心して学べる環境を整えます。

●9年間を見通した学びを実現

- （仮称）東の原義務教育学校を整備し、9年間を見通した学びを実現します。

①先進的なデジタル教育の推進

こどもたちがデジタル技術を活用し、STEAMを統合的に探究できる学びを推進します。また、各教科において情報活用能力を体系的に向上できるような支援体制を整えます。

実施の方向性と主な取組

◆ STEAM・探究の統合的な学びの展開

主な取組

- ロボット教材を配備とともに、小中連動のカリキュラムを整備し、STEAMを統合的に探究する学びを展開します。

◆ 教科横断的な視点での情報活用能力の向上

主な取組

- 各教科での情報活用の手引きや実践事例をまとめ、こどもや教職員が共有・活用できる仕組みを整えることで、授業改善と学びの質の向上につなげます。

先進的なデジタル教育の推進



②デジタル基盤を活用した質の高い探究的な学びの実現

こどもたちが自ら問いを立て、考え、協働して新たな価値を創造する探究的な学びを日常化します。基礎的・基本的なスキルを高めながら、自律的で楽しく学び続けられるよう授業改善を進めます。

実施の方向性と主な取組

◆ 探究的な学びの体系化・日常化

主な取組

- 総合的な学習の時間を、情報を基に考えを形成したり、課題を見いだして解決や創造につなげたりする探究的な学びへと発展させます。
- こども一人ひとりの学びを分析し、考える力を伸ばすAIシステムを導入して、より自分に合った学びを進められます。

◆ 基礎的・基本的なスキルの向上

主な取組

- こども一人ひとりの学習状況に応じて最適な学びを支援するAIドリルを導入し、基礎・基本の習得を支援します。

③グローバル社会を見据えた学びの推進

多様な文化や価値観を理解し、国際的な視野を広げる学びを充実させます。また、世界とつながる交流の場を整え、英語によるコミュニケーション力の向上を支援します。

実施の方向性と主な取組

◆ グローバルマインドを育成する学びの展開

主な取組

- 小中学校9年間を通じて一貫した英語学習を行う特別な教育課程を編成・実施し、実践的なコミュニケーション能力の育成を図ります。



◆ 英語の基礎的スキル向上支援

主な取組

- 中学校用の英会話アプリを導入するとともに、オンライン国際交流授業を進め、英語の基礎的なスキルの向上と異文化理解を育みます。

④多様な学びの保障と包摂的な支援体制の整備（1）

学校内外の支援拠点を整備し、一人ひとりの状況やニーズに応じた多様な学びの場を広げます。あわせて、特別な支援を必要とする子どもへの学習や生活面での支援を充実させます。

実施の方向性と主な取組

◆個に応じた学びを支える拠点・制度の整備

主な取組

- 各小中学校内に校内教育支援センターを順次整備するとともに、交通の便の良い場所に新たな市教育支援センター（まさば）を設置し、こどもたちが安心して学べる環境を整えます。
- 気軽に学び合える交流拠点や、STEAMなどの創造的な活動ができる拠点的ラボを整備し、多様な学びの場を広げます。
- 小規模校の特性を生かし、自然の中で異年齢が共に学び合い、対話や探究を通して自ら学ぶ力を育む先進的な学習環境を整えます。

◆地域と連携した多様な学びの支援

主な取組

- 教育センターを支援の拠点として、学校やフリースクール等と連携し、一人ひとりに応じた支援情報を提供することで、こどもや保護者を支える体制の充実を図ります。
- フリースクールの事業者補助とともに、利用者への補助を進めます。
- 地域の民間プール施設を活用した水泳授業を拡大し、教育の質や安全性を高めます。

④多様な学びの保障と包摂的な支援体制の整備（2）

実施の方向性と主な取組

◆ インクルーシブ教育システムの充実

主な取組

- 特別な支援をする児童生徒が市内の学校に通うことができる環境を整え、すべての子どもが安心して学び、成長できるようにします。
- 多様性を尊重する意識を育む学びを充実させ、子どもたちが互いを理解し支え合う姿勢を身につけることで、すべての子どもが自分らしく学びに参加できる学校づくりを進めます。

◆ 学びを支える環境整備

主な取組

- 特別教室や体育館に空調を整備し、子どもたちが安心して学び、快適に活動できる環境を整えます。
- 9年間を見通した学びを実現する（仮称）東の原義務教育学校を整備します。
- 学校給食において市内産の農産物を利用し、地産地消を促進し、子どもたちの食に対する関心と地域への理解を深めます。
- 市立小・中学校の児童生徒の学校給食費無償化を引き続き実施します。

実現に向けたロードマップ[°]

今後5年間で取り組む主な事業は以下のとおりです。

施策	実施の方向性	令和8年度 2026	令和9年度 2027	令和10年度 2028	令和11年度 2029	令和12年度 2030
①先進的なデジタル教育の推進	STEAM・探究の総合的な学びの展開	●ロボット教材（全小中学校配置）	●小中連動STEAMカリキュラム実施	●STEAM・探究の一体的な学びの定着	●特別な教育課程編成（情報）検討	●新学習指導要領を踏まえた特別な教育課程（情報）編成
	教科横断的な視点での情報活用能力の向上	●情報活用ハンドブック作成	●各教科での好事例バンク構築と横展開			→
②デジタル基盤を活用した質の高い探究的な学びの実現	探究的な学びの体系化・日常化	●探究的な学びの展開モデル作成	●探究的な学びのカリキュラム実施	●探究学習AIシステム導入	●地域・企業との連携による探究活動拡充	
	基礎的・基本的なスキルの向上	●個別最適AI型教材試験運用・選定	●個別最適AI型教材の導入	●学習データの横断的な利活用環境整備		
③グローバル社会を見据えた学びの推進	グローバルマインドを育成する学びの展開	●特別な教育課程編成（全小学校英語）				→
	英語の基礎的スキル向上支援	●英語学習用AIシステム導入			●オンライン国際交流授業拡充	
④多様な学びの保障と包摂的な支援体制の整備	個に応じた学びを支える拠点・制度の整備	●校内教育支援センター設置拡大	●（仮称）街のステーションまきば設置	●校内教育支援センター全校設置		
	地域と連携した多様な学びの支援	●民間による水泳授業実施拡大 ●フリースクール等利用者補助実施	●フリースクール補助について再検討			→
	インクルーシブ教育システムの充実	●特別な支援を要する子どもの状況に応じた特別支援学級等の開設				
	学びを支える環境整備	●特別教室や体育館の空調整備		●（仮称）東の原義務教育学校開校		

プロジェクト03

地域：共に育むプロジェクト

～みんなでつながり共に育む地域へ～

印西市の現状と課題（1）

現状

- こどもたちの学びや成長は、学校だけで完結するものではなく、家庭や地域、さまざまな地域資源との連携によって支えられています。

課題

- これからの教育においては、学校と地域が連携してこどもたちを育む取り組みをさらに進める必要があります。
- 現状では、市内全体でこうした仕組みが十分に整っておらず、こども一人ひとりが地域とともに、多様な学びや体験を十分に得られる環境をつくることが必要です。
- 地域の人材や資源を活かし、学校と地域が一体となった学びの場を整えることが必要です。

印西市の現状と課題（2）

コミュニティ・スクール 印西市の現状・課題

（1）現状

- ・学校運営協議会：印西中学校区に導入、R8は他の中学校区で順次導入予定
- ・地域学校協働活動（本部）：未組織・未活動

（2）課題

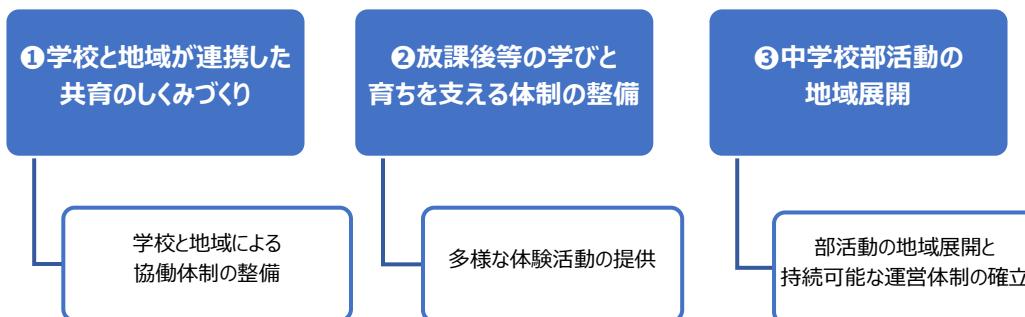
- ・多様な人の参画をどのようにして得るか
- ・具体的な活動にどのようにつなげていくか
- ・制度を形骸化させずに、どのように継続させていくか
- ・現存する学校支援団体（さわやかコミュニティ推進委員会）との再構築を含めた、学校運営協議会との連携の在り方及び地域の方の負担軽減への取組



地域：共に育むプロジェクトの展開

学校と地域がつながる仕組みづくりや社会全体でこどもたちの学びを支える取り組みにより
「子どもの学びを社会で育む“共育”日本一」を目指します。

施策と実施の方向性



ピックアップ事業

●コミュニティ・スクールの設置

- コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を順次設置し、「地域とともにある学校づくり」を進め、地域と学校が連携して、こどもたちの成長を支える体制を整えます。

●アフタースクールの導入

- 小学校の放課後を活用し、安全・安心な居場所と多様な体験・活動の機会の提供を進め、こどもたちの自立心や社会性を育みます。

●地域スポーツ・文化芸術クラブの整備

- 地域スポーツ・文化芸術クラブの段階的な整備と地域との連携・協働を促進し、こどもたちが地域の中で多様な活動を通じて健やかに成長できる環境を整えます。

①学校と地域が連携した共育のしくみづくり

学校と地域が力を合わせて、子どもを育む体制を整えます。また、学校運営協議会やコーディネーターを設置し、地域全体で子どもの学びや成長を支えるしくみをつくります。

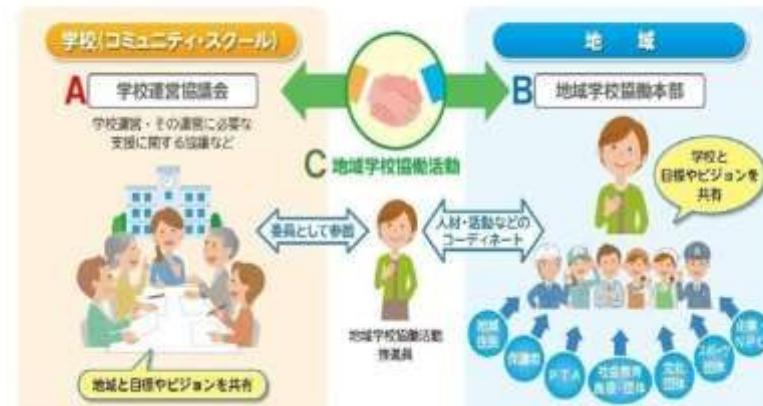
実施の方向性と主な取組

◆ 学校と地域による協働体制の整備

主な取組

- 学校運営協議会を順次設置し、「地域とともにある学校づくり」を進め、地域と学校が連携して、子どもたちの成長を支える体制を整えます。
- 地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を配置し、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進します。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を目指して



(出典：文部科学省 これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動)

②放課後等の学びと育ちを支える体制の整備

放課後の時間などに、子どもたちが安心して過ごせる場を広げます。あわせて、多様な学習や体験活動を開催し、子どもたちの成長を支えます。

実施の方向性と主な取組

◆ 多様な体験活動の提供

主な取組

- 小学校の放課後を活用し、安全・安心な居場所と多様な体験・活動の機会の提供を進め、子どもたちの自立心や社会性を育みます。



③中学校部活動の地域展開

学校の部活動を地域へと段階的に移行し、持続可能な運営体制を整えます。地域の力を生かして、こどもたちが健全で豊かな活動を続けられる仕組みを築きます。

実施の方向性と主な取組

◆ 部活動の地域展開と持続可能な運営体制の確立

主な取組

- 地域スポーツ・文化芸術クラブの段階的な整備と地域との連携・協働を促進し、こどもたちが地域の中で多様な活動を通じて健やかに成長できる環境を整えます。



実現に向けたロードマップ[°]

今後5年間で取り組む主な事業は以下のとおりです。

施策	実施の方向性	令和8年度 2026	令和9年度 2027	令和10年度 2028	令和11年度 2029	令和12年度 2030
①学校と地域が連携した 共育のしくみづくり	学校と地域による協働体制 の整備	<ul style="list-style-type: none">●学校運営協議会設置 拡大●地域学校協働活動推 進員配置拡大 (学校運営協議会設置 校に各1名)	<ul style="list-style-type: none">●学校運営協議会設置 拡大●地域学校協働活動推 進員配置拡大 (学校運営協議会設置 校に各1名)	<ul style="list-style-type: none">●学校運営協議会 (全校設置)●地域学校協働活動推 進員配置 (全校に各1 名)		
②放課後等の学びと育ちを 支える体制の整備	多様な体験活動の提供	<ul style="list-style-type: none">●アフタースクール導入 (牧の原小・滝野小)	<ul style="list-style-type: none">●アフタースクール導入 拡大			→
③中学校部活動の地域展 開	部活動の地域展開と持続 可能な運営体制の確立	<ul style="list-style-type: none">●地域スポーツ・文化芸術 クラブの段階的な整備●持続可能な運営体制 の確立				

